

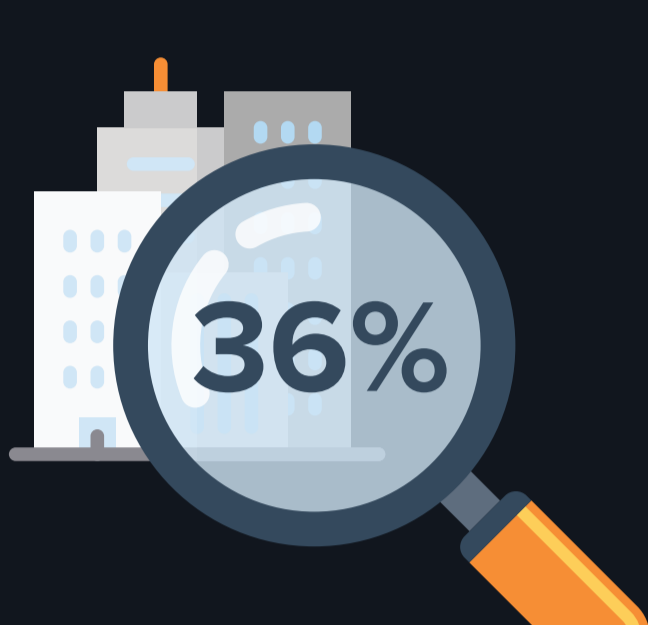


# クラウドの価値を最大化するための方法 トップ5

組織がクラウドへと向かう理由はいくつかあります。限られたITスタッフ。コストの削減。アーカイブ。ディザスタリカバリ。クラウドは優れたリソースです。しかし、クラウドから最大限の価値とパフォーマンスを得るには十分なプランニングと適切なツールが必要です。次に、重要な5つの考慮点を示します。

## 1. 移行の前にシステムを最適化する

過度に使用されているシステムや、十分に使われていないシステムをクラウドに移行しても意味がありません。信頼できるソリューションを使用して既存のデータセンターのシステムを最適化し、実際の履歴データを使用してピーク時だけでなく将来に向けたクラウドのリソースを計画してください。



2020年までに36%の企業がクラウドを使用してレコードの半分以上のトランザクションシステムをサポートするようになるでしょう。<sup>1</sup>

## 2. ニーズに合った最適なクラウドとリソースを選択する

使用可能なクラウドオプションがあまりにも多くあるため、コストとパフォーマンスのバランスを取ることが最適な戦略と言えます。Webを自動的に検索し、知識に基づいた判断を下すために必要なオプションや価格情報をすべて収集できるツールを使用して時間を節約してください。

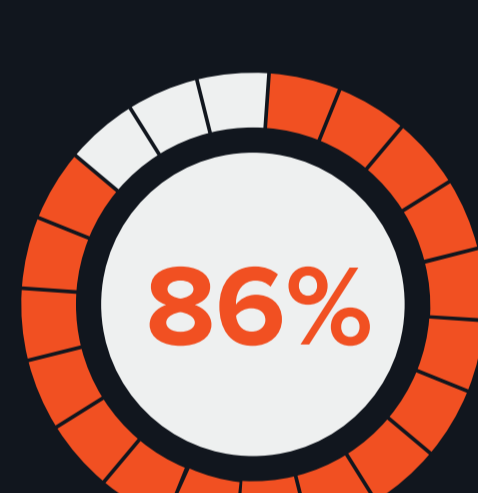


IDCではオフプレミスのクラウドITインフラストラクチャへの支出が5年のCAGRで10.8%伸び、2022年には557億ドルに達すると見えています。<sup>2</sup>

557億ドル

## 3. クラウドに極力バックアップを行うことでハードウェアの購入をゼロにするか、または削減する

信頼性の低いWAN接続を介した場合でさえも、高速かつ安全にクラウドに直接バックアップできるデータ保護ソリューションを見つけます。データの重複除外により、ストレージ容量とコストを節約してください。特にデータセンターへのリカバリを計画している場合は、さまざまなシナリオを使用してリカバリ時間を慎重にテストします。



クラウドテクノロジーに関する意思決定者の86%以上が現時点でマルチクラウド戦略があると述べています。<sup>3</sup>

## 4. クラウドにバックアップをレプリケートしてディザスタリカバリを実現する

オンプレミスでバックアップする場合、特に独自のリモートサイトがない場合にディザスタリカバリを実現する最適な方法はクラウドにレプリケートすることです。オンプレミスまたはクラウド内でのデータの重複除外により、ストレージの要件とコストを低減します。ディザスタ保護を最大化するには、複数のクラウドへのレプリケーションを検討してください。

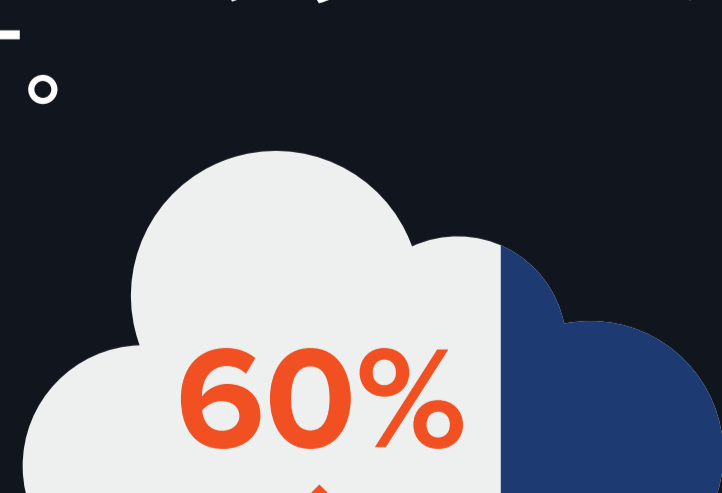


IDCによると、組織の90%が今後12ヶ月以内にデータ保護戦略の一環としてクラウドの利用を計画しているとのこと。<sup>4</sup>



## 5. すでにクラウドにある本番稼働ワークロードを保護する

クラウドベースのアプリケーションとデータをデータセンター内にあるかのように扱ってください。クラウドプロバイダーは通常、ビジネスを保護し、コンプライアンスを維持するために必要な包括的で長期にわたるデータ保護やディザスタリカバリの機能は提供していません。データ保護をシンプルにするには、オンプレミス、リモートオフィス、およびクラウドでアプリケーションやデータを保護する単一のソリューションを見つけ出します。



企業の60%がミッションクリティカルなアプリケーションをパブリッククラウドに移行しようとしているか、または既に移行しています。<sup>3</sup>

<sup>1</sup> Gartner: フランスでは予想よりも早くに速いペースでクラウドへの移行が進んでいる (2017年9月)。

<sup>2</sup> IDC: クラウド環境におけるITインフラストラクチャ支出は2018年に10.9%伸びると予測されている。

<sup>3</sup> TechRepublic: 企業の86%がパブリッククラウド戦略を採用しているか、また、どのような影響をビジネスに与えているか。

<sup>4</sup> IDC: 世界のサービスとしてのデータ保護の予測、2018~2022年、IDC US44108018、2018年7月。

Questによるサポートをご確認ください

# Quest®